

2013(平成 25)年度 事業報告

特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会

1. 研究会運営

6月11日 セミナー「エコツアーによる地域振興と野生生物保全 アフリカから日本を考える」(話題提供：山極壽一理事)を開催し、講演録を会報に収録した。

2. 調査提言

(1) ワシントン条約、生物多様性条約など国際会議および世界の野生生物の状況を情報収集し、シンポジウム・審議会等の参加と合わせブログ等で報告した。生物多様性国家戦略や種の保全戦略についてパブリックコメントを提出した。

また4月にスローロリスの識別について警視庁から問い合わせがあり情報を提供、3月には野生生物犯罪に関して国際刑事警察機構(インターポール)とNGOの会議に参加するなど、活動の専門性が注目された。

(2) 生物多様性に影響を及ぼす奨励措置に関する研究・提言 (3年計画2年目)

～愛知ターゲット目標3の達成とグリーン経済への転換に向けて

独立行政法人環境再生機構地球環境基金助成事業。申請した事業を完了するだけでなく、2月にはIUCN日本委員会による「にじゅうまるパートナーズ会合」で分科会を持つなど、他団体との連携で活動を広げた。

3. 生息地支援

JX日鉱日石エネルギー(ENEOS)からのクリック募金寄付により、ゴリラの生息地で保全活動を行っているWCSコンゴとポレポレ基金を支援。2,987,548円を送金した。クリック数の減少と円安で送金額が減少していることが課題である。

4. 普及啓発

(1) 調査提言事業および翻訳ボランティアのご協力により得た、消費と絶滅に関する情報をウェブサイト、印刷物等で情報発信した。翻訳ボランティア登録約400名で2013年度は161件のニュースを和訳した。

(2) セミナーを開催した。(6月11日「エコツアーによる地域振興と野生生物保全 アフリカから日本を考える」)

(3) IUCN日本委員会にじゅうまるプロジェクトの登録団体として5月に生物多様性の日シンポジウムに登壇、7月にIUCN親善大使イルカさんコンサートで展示を行った。

(4) 4月に東京農業大学「ボランティア論」ゲスト講師、12月にエコプロダクツ出展などを行った。

(5) 動物園と協力した普及イベントを検討し、2014年度にゴリラの生息地支援活動の報告としてシンポジウムの企画が進行している。

マンパワーと予算が限られる中で、効果的な普及啓発の検討が課題である。

5. 国際会議参画

(1) IUCN、SSN、CBD アライアンスなど国際団体のメンバーとして情報収集を行った。英語での発信が課題である。

6. 会報発行

(1) 年3回（6月12月3月）発行。12月からはデザイナーにレイアウトを発注し、読みやすさに考慮した。

(2) メールマガジン、ウェブサイトなど電子媒体の役割分担を見直した。ウェブサイトの更新・整理が継続的に行えるようになった。メールマガジンはほぼ1か月1回発行できた。また Twitter は翻訳ブログの更新のお知らせを中心に2~3日に1回ツイートした。ホームページは前回の改定が2009年度だったので、構造的に改定が必要な部分がある。

イベントの申し込みや新規入会はウェブサイト経由がほとんどなので、さらなる工夫が必要である。

7. 組織運営

(1) 非常勤職員3人とボランティア1名（東友会ボランティアより派遣）により事務局を運営した。イベント時に学生を中心にボランティアを募集したが不調であった。ただ2014年度事業にはインターン1名が決まった。

(2) 総会を6月11日に開催したほか、理事会を3回開催した。

(3) 東京都へ認定NPOの申請を3月に行い受理された。2014年度に審査が行われる。

まとめ

2013年度は、当会の専門性が注目され、他の組織との連携により活動を広げることができたのが特徴である。またウェブサイトを使った情報発信が向上し、とくに海外の野生生物情報を日本語で多く発信することができた。組織運営の面では、認定NPOに申請するための作業を通じて、組織運営や事務作業全般の再構築を進めることができた。